

## 平成21年度各地区ブロック会議概要報告 (南関東、東北)

### 1. 南関東ブロック会議(9月15日(火) 埼玉県・浦和ロイヤルパインズホテル)

参加者は約180名。小池千代子埼玉県副会長の司会により、城田恵次郎埼玉県副会長の開会の言葉に続き、浅沼良臣埼玉県会長が開催県を代表して歓迎の言葉を述べた。岩崎幸雄神奈川県会長がブロック長あいさつとして「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について中教審での議論が進んでいるなかで、この南関東ブロック会議が開催されることの意義は大きい」と述べ、中込三郎全専各連会長より「将来の目的が見出せず彷徨っている若者たちに、生きる力を与え、夢と希望のある将来の進路選択ができるよう教育していくことが我々専門学校関係者の責務である」と力強いあいさつが述べられた。

続いて来賓として、文部科学省の藤野公之生涯学習推進課長が「現在、中教審では特別部会を設置し、今後の職業教育の振興策について、総合的な視野から検討を行っている。中込会長のリーダーシップのもと、引き続き、職業を通して夢を描き、夢を実現するための教育を推進してもらいたい」、上田清司埼玉県知事が「近年、ストレスに弱い子供たちが増えつつあり、青年時代の教育に係わる専修学校各種学校の役割はますます重要になっている。キャリア教育により個人の才能を実現させ、地域社会に貢献できる人材を育ててもらいたい」と祝辞を述べた。最後に来賓・行政関係者・全専各連・各協会会長等の紹介が行われ、本会議に入った。

はじめに「文部科学省報告」として塩原誠志専修学校教育振興室長から、「学校基本調査速報の報告と分析」「中教審キャリア教育・職業教育特別部会の審議経過報告」「専修学校教育の振興方策等に関する調査研究会議の設置に向けた検討」等について説明された。

文部科学省の報告を受け、「全専各連活動状況報告」として川越宏樹全専各連副会長が「全専各連1条校化推進運動に関するこれまでの経緯」「中教審特別部会での議論の状況」等について説明した後、全専各連事務局から、全専各連諸活動の状況報告、専教振の行う各種事業への協力、参加要請等について説明がなされた。

引き続き、各都県から行政報告が行われ、全体会を終えた。

休憩後、参加者が2分科会に分かれ、第1分科会では、名古屋大学大学院教育発達科学研究科の寺田盛紀教授により、「職業教育と専修学校の振興ー新しい高等教育機関の創設ー」と題して、「職業教育の動向」「専修学校の役割と課題」「高等職業教育の教育体系における位置づけとそのあり方」「わが国の高等職業教育整備の課題」等について講演が行われた。第2分科会(高等課程分科会)では、「各都県の現状と今後の振興策についてー魅力ある高等課程を編成し、どうアピールしていくかー」と題して、塩原専修学校教育振興室長臨席のもと、埼玉県・千葉県・神奈川県・東京都の高等課程の現状報告を踏まえ、今後の方策等について討議を行った。

小憩後、分科会が合流し、第1分科会の報告が伊東政信埼玉県理事より、また第2分科会の報告が清水信一全国高等専修学校協会制度改善研究委員長より行われた。

最後に、小林光俊東京都会長からの次期開催県あいさつに続き、山崎彰埼玉県副会長が閉会の言葉を述べて会議を閉会した。

その後、山谷えり子参議院議員・専修学校等振興議員連盟事務局次長を迎えて交流会となり、すべての日程を終了した。

## 2. 東北ブロック会議（9月17日(木) 宮城県・ホテル仙台プラザ）

参加者は約110名。東北ブロック大会実行委員長である橋本榮一宮城県会長の「政治経済の大きな転換期を迎えているが、専修学校各種学校も一致団結してこの難局を乗り切っていこう」との開会のことばに続き、中込三郎全専各連会長が、「職業教育を実践するわれわれの学校群の今後の方向性が大切である」と中教審で検討されている職業教育に特化した学校の創設を念頭にあいさつ。岡部隆男東北ブロック長・福島県会長は「50回大会にふさわしい充実した大会となること祈念する」とあいさつを述べた。

続いて、来賓として村井嘉浩宮城県知事（代理）らが祝辞を述べ、祝電披露に続き、永年勤続者表彰が行われ、対象者名を代表して宮城県の小野寺光弘氏が表彰を受け、謝辞を述べた。

開会式終了後、小憩を挟み総会が開かれた。総会では、文部科学省専修学校教育振興室の塩原誠志室長が、中央教育審議会キャリア教育職業教育特別部会の審議経過報告をもとにこれまでの議論の進展について解説。また、川越宏樹全専各連副会長から団体の立場でのこれまでの経緯報告と今後の展望について講演が行われ、全専各連事務局からは配布資料にもとづき平成21年度の基本方針説明と財団事業への協力要請がなされた。

議事では、①平成20年度経過報告及び収支決算並びに決算報告について、②平成21年度収支予算案について、③大会宣言文の採択、の各議案が審議され、原案どおり全会一致で承認された。

引き続き行われた研修会では、「乱気流を乗り切る専門学校の強化点（サブテーマ：時代はまさに乱気流に突入した。世の中の大変動とともに専門学校が把握すべき「生徒の心理」も日々変化している。その変化に的確に対応し、進化する専門学校の強化点を探る）」と題し、(株)マディソンコンサルティングの高橋康彦代表取締役ほか2名の講師を迎え、専門学校側からは全専各連川越副会長、菅原一博宮城県理事、飯岡智宮城県副会長の3名がコメンテーターとして参加。会場も交えてディスカッションが行われた。

閉会式が行われた後、懇親会となり大会の全日程を終了した。

総会において採択された大会宣言は以下のとおり。

## 大会宣言

平成 21 年 9 月 17 日

全国専修学校各種学校総連合会

東北ブロック宮城大会

私達は、時代が求める即戦力の人材を育成するキャリア教育・職業教育を実践している教育機関である。近年の社会環境は、国際化、情報化が進み、産業界でも専門化、細分化、高度化が一段と進み、有能なスペシャリストが囑望されている。

このような社会ニーズに応え、私達は、実践的職業教育及び専門的技術教育を受けた多くの卒業生を世に送り出してきた。

本日、50 回目の節目に当たる宮城大会において、下記事項を行政当局に要望し、併せて会員校自身が課題の解決に向け努力することを宣言する。

### 記

1. 専修学校教育を踏まえた高度職業教育を主たる目的とする新たな学校種創設を早期に実現すること。
2. 文部科学省と連携し、専修学校及び各種学校と他の学校種との制度的な格差の是正（激甚災害法の適用等）を図ること。
3. 専修学校及び各種学校が、教員の資質や教育水準等の維持・向上を図るため、学校評価等の組織的な取組みを推進すること。
4. 全専各総連及び都道府県協会等の組織強化・活性化に努めること。

以上